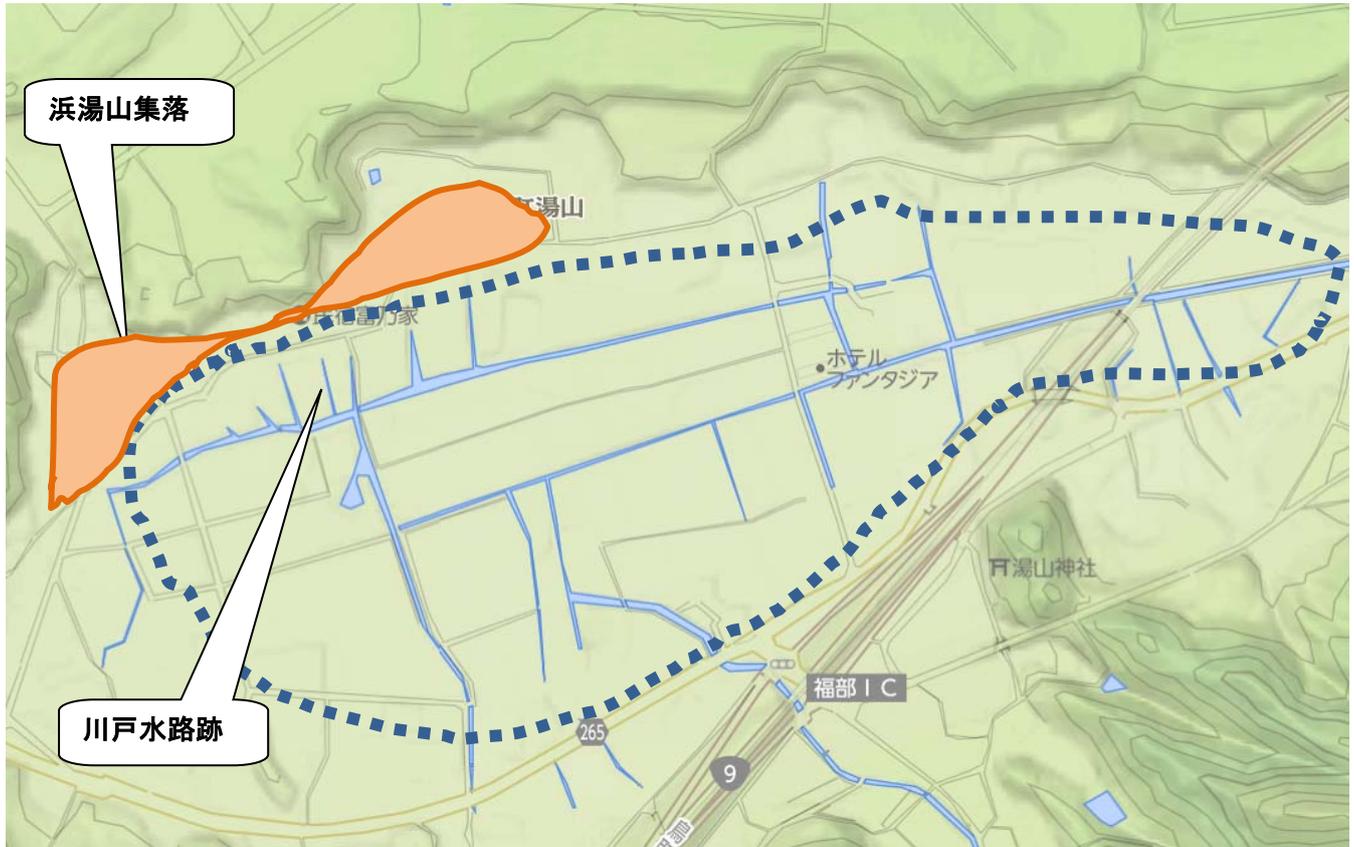


# 湯山池の干拓後に残る農業歴史遺産・川戸 かわど

縄文時代 弥生時代 古墳時代 飛鳥時代 奈良時代 平安時代 鎌倉時代 室町時代 江戸時代 明治時代 大正・明治・昭和時代

## 水田耕作を支えた水運網・川戸（かわど・かわど）



点線で示す範囲は、江戸時代後期まで「湯山池」として存在していた50haにもおよぶ場所である。

江戸時代後期にこの一帯は、砂丘の砂で埋め立て干拓され、50haの水田となったが（別の資料「細川池と湯山池の干拓事業」を参照）荷車などが利用できる道路網はなく、明治時代、大正時代、昭和の20年代頃まで水田耕作はもっぱら「水運網」を利用した。

今では利用されないが、消滅した川戸跡が集落に30本以上あったようです、また水田には縦横無尽に水路が走っていた。

縦横無尽にあった水路のイメージ画像



当時は各家は木製の川船（底の平らな船）を1槽以上を保有していた。

田植え時期には「苗」を積んでそれぞれの家の近くの「川戸」から水路を利用して水田へ運んでいた。

稲刈り時期には水田から収穫した稲を船に積んでそれぞれの家の近くの「川戸」に着け、荷車に積んで家へ運び脱穀作業などをしていた。

川船のイメージ・・・竹竿をさして運搬。



また水田の直ぐ傍には水路（川）があったが、水田耕作に欠かせない「水」の取り込みは水田より川の水位が低く、足踏み水車を利用して川の水を水田に汲み上げる苦労があった。

足踏み水車の両側に竹竿などの支柱があり  
これで体を支えて足で水車を回転させて川の  
水を組み上げていた。

